農地・水・環境だより　夏号　（第18回）

平成２２年７月１日
いしかわ農地・水・環境協議会

■美しい田園を次世代に

南加賀支部【みずほの会】

私たち「みずほの会」は加賀市北部の宮地地区で活動しています。農地・水・環境保全向上対策事業には平成１８年度モデル事業から取り組んでおり、開水路の泥上げ、草刈りを年一回実施、景観形成として農道わきへの松葉菊の植栽（写真：右下）と清掃除草を実施しています。

また、毎年秋には、ため池生き物調査を小学校等と連携して実施しており（写真：左上）次世代へ在来生物、農地の大切さを伝えています。そのほか、子供会と連携し道路のゴミ拾いを行っています。

各種活動に際しては地域の皆さんの積極的な参加により支えられており、これからも美しい農地を守りその意義とともに次世代へ伝えていきたいと思います。

■蛍が住む里づくり

県央支部【八野地域資源保全向上推進隊】

かほく市の「八野地域資源保全向上推進隊」は農村環境向上活動の一環として、平成１９年度より八野子ども会が３年間にわたり源氏蛍・平家蛍等の生息調査を実施しています（写真：右上）。

蛍はカワニナという貝を食べて育ちますが、カワニナや蛍が生きるためには、きれいな水が必要です。

そこで、子ども会と共に地域の蛍やカワニナの生息調査を実施したところ、蛍・カワニナがたくさん生息していることが確認され、八野町内に流れる河川の水質の良さがわかりました。河川の水は農業用水に利用しており、八野のお米が美味しいのはきれいな水のおかげであることがわかりました。

かつてこの地域には、源氏蛍や平家蛍等たくさんの蛍が生息していましたが、ほ場整備事業による環境変化で一時的に減少しました。しかし、毎年の調査結果では蛍が徐々に増えてきており、地域の環境がよくなってきたとも感じており、子どもたちも大きな蛍に歓声を上げ、追いかけていました（写真：左下）。

今後も河川の水質向上・環境保全に配慮し、もっと蛍が飛び交う里づくりを目指したいと思っています。

■景観形成と遊休農地の解消

中能登支部【北大海の会】

当会は、宝達山麓から海岸砂丘地に至る宝達志水町の南部に位置する水田を中心とする地域で、歴史的にも各集落が、前田川の水利の共同管理を行うなど、深く結びついた９集落による合同組織です。

近年は農家の減少による遊休農地の増大や外来植物の繁茂等、農地と自然が溶けあった景観が失われつつあります。

このため、例年地域コミュニティー活動を実践しながら次のように景観形成や遊休農地の解消に努めています。

１．女性の会・青年団・老人会などによる農道沿線の植栽や清掃
２．小学生・PTA・教職員を含めたビオトープの除草や管理
３．草刈り、焼却、耕耘による遊休農地の管理（写真）

今後は、遊休農地にはレンゲ草やコスモス等を植えて、地域の住民が一緒になって楽しみながら活動できる場所としていきたいと思います。

■景観形成の取り組みについて

奥能登支部【山口「みどりの里」保存会】

能登町字時長地内において、地元住民の協力の下、約４０名が参加してもち米とヨモギの作付けに取り組みました（写真：左上）。

この地区では、ヨモギ餅を作って食することが多く、景観形成の活動として、毎年行うこととなっております。

もち米の作付面積は約１０ａで、田植え、刈取り等をすべて手作業で行い、はざ掛けも行いました（写真：右下）。また、ヨモギの面積は約５ａで、畝を作り作付けを行いました。

収穫したもち米とヨモギは、集落のイベントとして子供から老人までが集い、餅つきをしてヨモギ餅を作り、みんなで食しました。集落全体の交流を深める大事なイベントとなっていることから、今後も継続していきたいと思います。

【事務局からのお知らせ】

今回、ご紹介したように各組織で生き物調査が多く行われているようです。未来を担う子どもたちに、地域の生息生物に触れ合って体験してもらうことはとても良いことだと思います。田んぼを中心とした生態系の保存を行なっていけるよう、これからの活動をますます期待しております。また各地域の活動紹介にご協力お願いいたします。

〒920－0362　石川県金沢市古府１丁目 197 番地　石川県土地改良事業団体連合会内
いしかわ農地・水・環境協議会　　事務局：中　正樹
TEL：FAX　０７６－２４９－８１９１　　E－mail：ishikawa@shigenhozen.jp